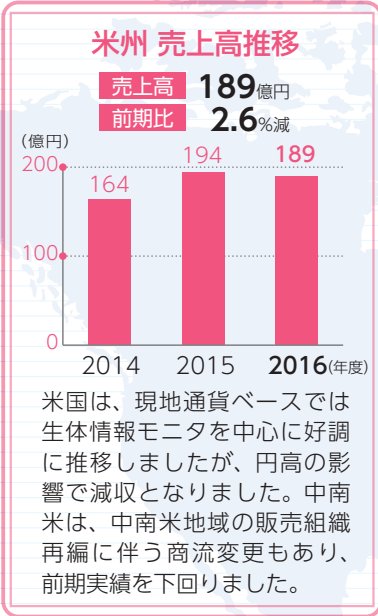
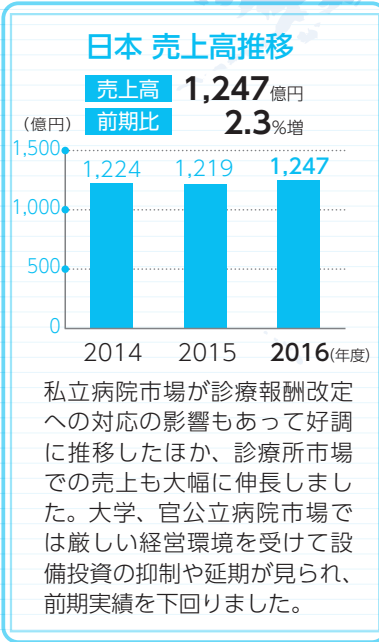
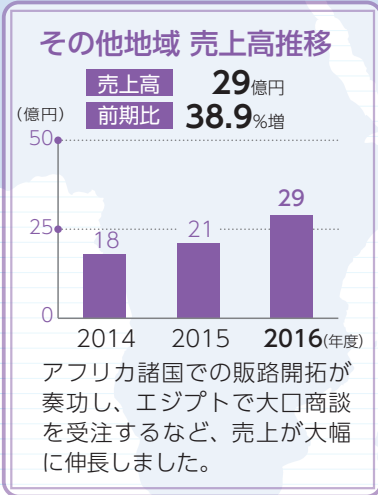
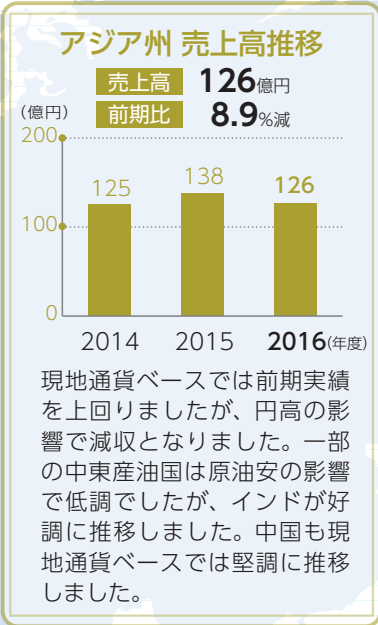
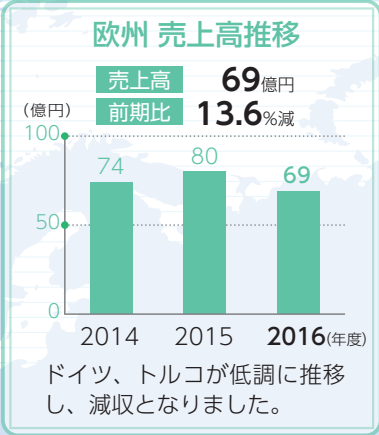


日本光電がこれまで開発した製品は、世界120カ国以上に輸出され、世界各国の医療現場で使用されています。



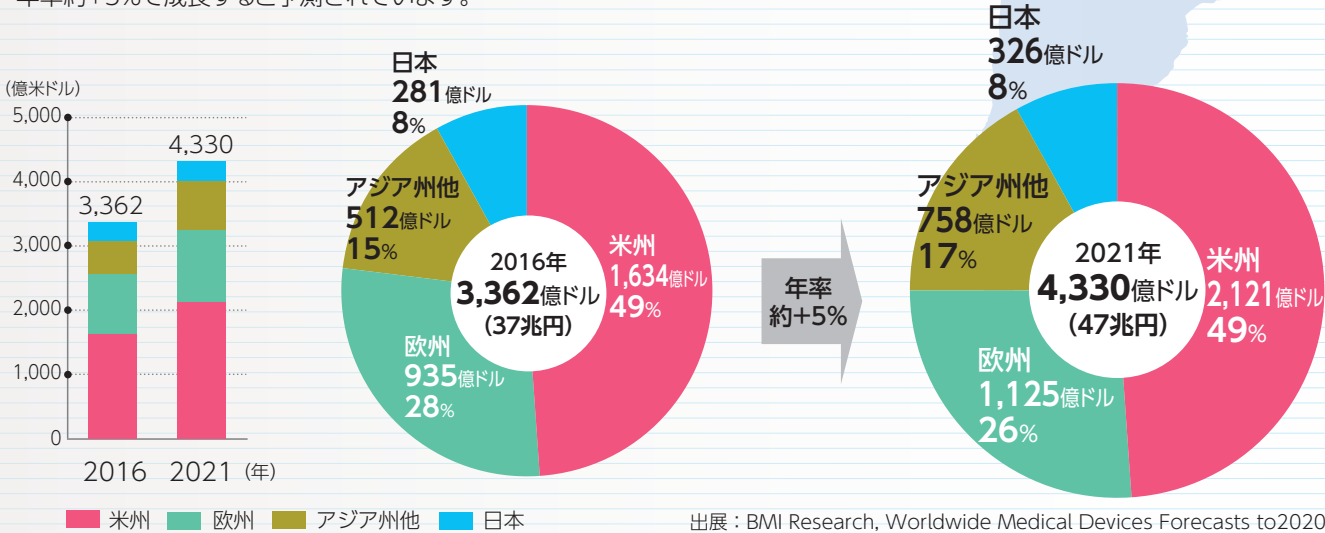
米国・新興国市場を中心に海外事業を拡大

日本光電は、世界最大の市場かつ医療最先端の米国市場でさらなる事業基盤の強化に取り組み、医療の質と効率の向上に貢献できるソリューションを提供するため、「生体情報モニタ」「脳神経」「救命救急」の3事業の連携を図るとともに、商品群の拡充や戦略的M&Aを推進します。また、市場ニーズへ迅速に対応し、高い顧客満足を実現するため、開発・販売・サービス体制のさらなる増強を図ります。

新興国市場では、各地域の医療ニーズに応えるため、戦略的な事業展開を進めます。中国では、開発・生産体制をさらに増強し、新興国のボリュームゾーン市場に向けた製品ラインアップを拡充する予定です。また、インド、東南アジア、中南米市場においては、現地生産を推進するとともに、サービス体制の増強を進めます。

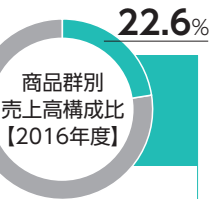
世界の医療機器の市場規模

世界の医療機器市場は、高齢化の進展と、新興国における経済発展に伴う医療ニーズの増大により、2021年に向けて年率約+5%で成長すると予測されています。



出展：BMI Research, Worldwide Medical Devices Forecasts to2020
※1ドル=110円で換算

生体計測機器



心電計
ECG-2400シリーズ

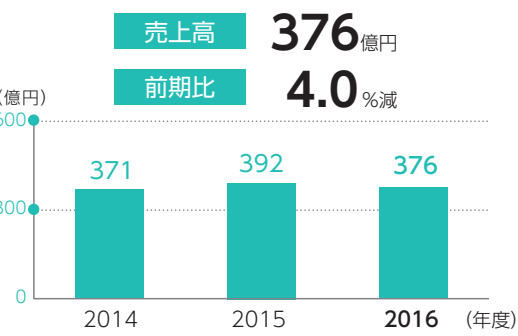
日本光電では、コア技術である「センサ技術」を駆使し、身体の発する微弱な情報もキャッチする、優れた“生体計測機器”を提供し続けてきました。主な機器には、脳波計、心電計、筋電図・誘発電位検査装置、心臓カテーテル用検査装置等があります。特に、てんかん、睡眠障害などの診断に欠かせない「脳波計」は、世界で高いシェアを誇っています。

国内

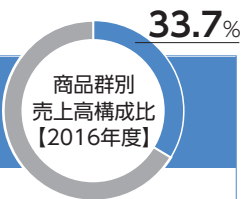
心臓カテーテル検査装置群は好調に推移したものの、脳神経系群、心電計群、診断情報システムが前期実績を下回りました。

海外

脳神経系群、心電計群ともに全ての地域で減収となりました。



生体情報モニタ



医用テレメータ
WEP-5250 シリーズ

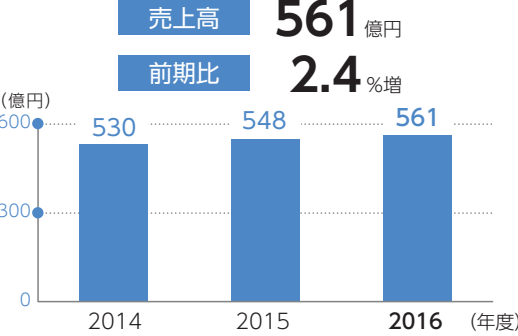
心電図、体温、SpO₂（動脈酸素飽和度）、NIBP（非観血血圧）等、患者さんの生体情報を連続してモニタリングする生体情報モニタは、集中治療（ICU/CCU）や手術室、一般病棟など、様々な医療現場で活用されています。日本光電では、かかりつけ医向けの簡易モニタから病院内の搬送用モニタ、集中モニタリング機能を備えた高度なモニタリングシステムまで、幅広いノウハウをベースに、製品開発を進めています。

国内

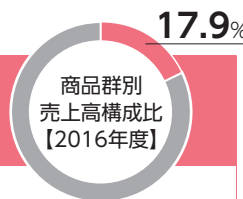
医療機関の機能分化・強化に伴う需要により、送信機、医用テレメータ、ベッドサイドモニタが好調だったほか、センサ類などの消耗品も好調に推移しました。

海外

その他地域で売上が大幅に伸長し、米州も前期実績を上回ったものの、欧州、アジア州で前期実績を下回りました。



治療機器



自動体外式除細動器
AED-3100

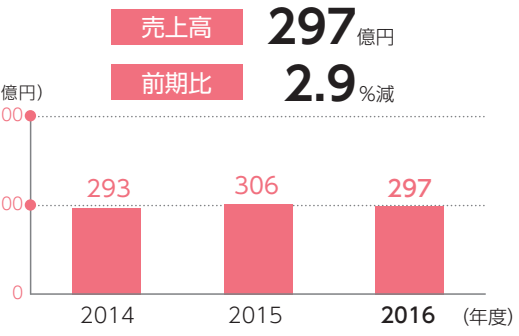
救急蘇生用の除細動器は、心室細動になった心臓に電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための治療機器です。日本光電は、院内や救急現場で使用する除細動器と一般の方が使用できるAEDを開発・製造しています。また、植込み型心臓ペースメーカや人工呼吸器、麻酔器など、世界トップレベルにある海外製品の導入販売にも力を注いでいます。

国内

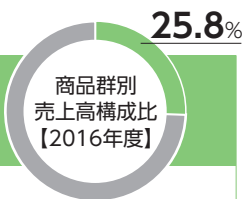
人工呼吸器、ペースメーカ・ICDは好調に推移しましたが、AEDが更新需要の鈍化により低調だったほか、医科向け除細動器も前期実績を下回りました。

海外

AEDはアジア州、その他地域で好調でしたが、米州、欧州で前期実績を下回りました。医科向け除細動器は全ての州で減収となりました。



その他



全自動血球計数器
MEK-9100

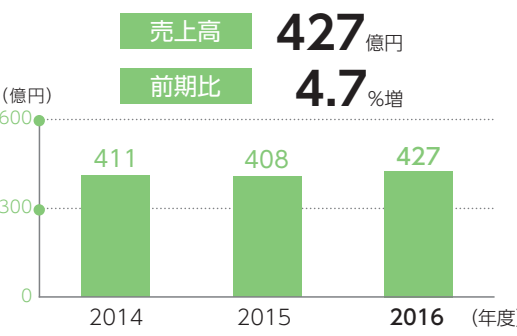
検体検査分野では、血液中の血球数を測定する血球計数器と測定に必要な試薬を開発・生産し、測定精度の向上に取り組んできました。糖尿病の診断指標でもあるヘモグロビンA1c（HbA1c）とC反応性蛋白（CRP）を測定できる臨床化学分析装置も提供しています。また、研究用機器も自社開発し、性能の向上に努めています。

国内

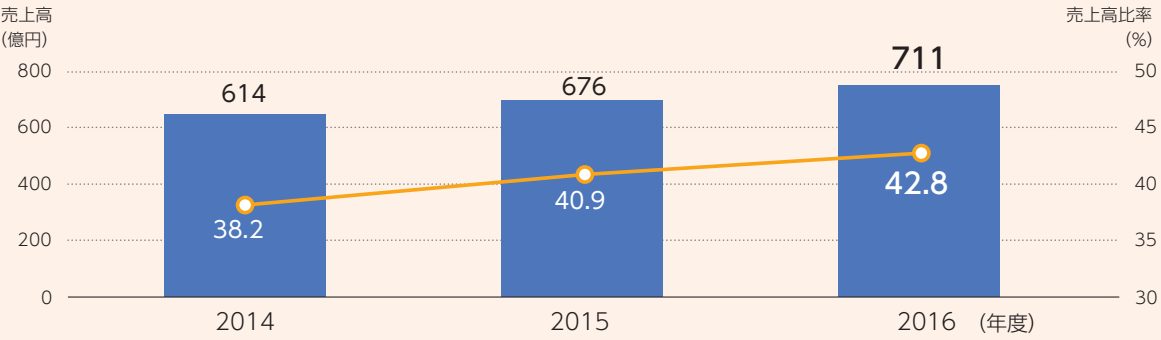
検体検査装置が好調に推移したほか、仕入品も前期実績を上回りました。

海外

血球計数器・試薬の売上は微減となりましたが、仕入品が前期実績を上回りました。



消耗品・保守サービス売上高の推移



日本光電の医療機器はご購入後も、患者さんごとに電極やセンサなどの消耗品が必要になります。また、お客様に安心してお使いいただけるよう、保守サービスも提供しています。消耗品・保守サービスの売上高は、景気に左右されにくい、安定した収益基盤につながっています。中期経営計画では、独自技術によりセンサなど消耗品の競争優位性を高めるとともに、医療の効率化や患者安全に貢献するサービスを拡充し、消耗品・保守サービスの売上高比率45%を目指します。



心電図電極



SpO₂プローブ



AED用使い捨てパッド



血球計数器の試薬